

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390700106		
法人名	株式会社 なかよし		
事業所名	グループホーム こよし		
所在地	岡山県井原市高屋町3-25-30		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3390700106-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年3月開設し、一年が経とうとしています。代表者の、地元の役に立ちたいという思いから、法人としてデイサービス、居宅、小規模多機能居宅介護、最後に設立されたグループホームです。入居された一人ひとりが、家庭的な雰囲気の中で自分らしく安心して過ごして頂けるよう、またご家族や今まで関わってこられた方々が、気軽に立ち寄って頂けるようなグループホームを目指しています。バリアフリーでホール内も明るく、職員はいつも元気で笑顔を絶やさず一緒に生活を送っています。地域との交流はこれからの課題であり、ご本人、ご家族が、楽しみにして頂けるよう整えていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭先のプランターに野菜を植え、生育を見守りながら外気浴が出来るよう工夫したり、住み慣れた地域で穏やかに過ごせるような環境作りに努められており、職員の優しい笑顔と清潔感のある家庭的な雰囲気の事業所である。
医療面においては日々の状態を記録し、かかりつけ医との連携を深め、緊急時にも快く相談に応じ対応して頂いているので、家族は安心出来ている。
今後、地域に根づいた事業所となるよう期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の思いを継続していけるよう皆で確認しあい決定した。職員間で共有、実践に向けて、理解を深めていく必要がある。	事業所独自の理念を掲げ、月例ミーティングにおいて職員間で共通認識のぶれやズレを確認し、修正し合うよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者各々に地域の方の面会は少なからずあるが、事業所から地域に向けての発信は今後の課題である。	開設して一年目だが、お祭りで子ども会が立ち寄ったり、地域住民のボランティアによるトランペットの演奏会を開催したりと地域との交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内他事業所と共に、毎月発行している通信でグループホームでの取り組みを紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能と一緒に運営推進会議を開催し、事業報告を行っている。地域の方の理解と意見を得ながら、地域に根づいたグループホームを目指している。	同一法人の小規模多機能事業所と合同で、公民館長や学校長、民生委員、市職員、利用者家族をメンバーに3ヶ月に1回開催している。現状報告を行い、意見を頂きサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市サービス連絡協議会で情報を得たり、運営推進会議で市の担当者に現状を伝えたり、意見を伺ったりしながら、協力的な関係が築けるよう努めている。	井原市介護サービス事業者連絡協議会の隔月の会議に出席し、市からの情報を得たり、研修に参加したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを原則としながら、夜間職員一人対応の時に限り、利用者の安全を最優先し、家族に具体的に説明、理解を得た上で、家族が安心できるケアを行っている。	職員は安全を確認しつつ自由な暮らしを支援している。また入居者の安全面を考慮して家族の了解を得た上でセンサーを取り付け、安全確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の方に常に尊敬の念を持ち、声掛けや態度に気を付けている。コミュニケーションを取りにくい方には、筆談等で他の方と同じように関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約業務を行う。本人、家族が疑問に思われることがないよう、一つ一つ項目、内容を読み説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人には対面で尋ねる。ご家族には来所時話しかけ気持ちを伺う。必要なことは代表者に伝え、ミーティング時職員間で話す。ご家族の本当の気持ちを話して頂けるよう平素からのコミュニケーションを大切にしている。	家族の訪問が多いので、入居者の状態を細かく伝える事が出来ている。また入居者や家族から出された意見や要望は職員全員で検討し、臨機応変にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングに代表者や法人内居宅のケアマネも出席し、職員の意見や提案を引き出し検討している。普段は「申し送りノート」で意見を出し合い統一を図ったり、会話の中からくみ取っている。	管理者は日頃から職員が意見を出しやすいよう心掛けている。また、月例ミーティングに参加できなかった場合、翌月には必ず参加できるようなシフトを組むなどの工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を奨励して。代表者や管理者が職員とのコミュニケーションの中からくみ上げ検討する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修には可能な限り参加し、参加したメンバーから皆に広めている。法人外研修にもシフトを調整し、出席できるよう取り組んでいるが、今のところ研修の機会が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市サービス連絡協議会に出席し、同業者と関わることはあるが、交流・向上までには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約までに本人、家族と面談し、不安なこと、希望をお聞きしながら、安心につながるよう一つ一つ説明し、信頼関係につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前までの家族の負担、不安や本人への思いにじっくり耳を傾けて、以前の関係が保てるよう聞き出す努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談する段階で、法人内居宅のケアマネと同席し、どういう関わりが必要か、どう関わることで、家族も安心して生活が送れるかを見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の言葉、表情に常に心を寄せ、笑顔を忘れず接していくことに気を付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も本人の様子を家族に密に伝えながら、いつでも面会に来て頂ける雰囲気づくりを大切にしている。家族、親戚、知人の面会の回数が大変多く、受診の同行も積極的に関わって下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来所時には、話しやすい様席をセッティングし、コミュニケーションがスムーズにできるよう見守る。馴染みの場所として、以前利用のデイサービスにお連れすることが多い。	入居者が以前勤めていた職場の同僚や地域の方の訪問があり、気軽に訪問してもらえる雰囲気づくりに努め、関係が希薄にならない様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの様子を観察し、関係がうまくいくよう席を考えたり、職員が関わることで孤立せず、穏やかに過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も入居先を訪問したり、家族からの相談を受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との毎日のコミュニケーションから、希望を把握できるよう努めている。自分の思いを伝えるのが困難な方に対しては、家族から情報をもらったり、職員間で検討し、その人らしい暮らしを見出そうとしている。	日々の関わりの中で常に声かけをし、表情や顔色からも思いを汲み取るよう努めている。表出の困難な場合は家族に生活歴を聴くなどし検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅訪問し、これまでの生活、環境を見せてもらったり、ご家族から生活歴や本人のこだわり等の情報収集を行ったりしている。また、以前担当のケアマネからも、これまでの様子を情報提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行うと共に、入浴や排泄などのケアを行い、変化や気づきがあれば記録として残し、職員全員が情報を共有し、早期対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を聞き、現状の課題や本人の持っている力についても話し合いながら、楽しみが持てたり、より良く生活できるような介護計画の作成に努めている。	介護計画は、担当職員がアセスメントを行い、日々の関わりの中での気づきを他の職員と話し合った上で、家族・本人の意見も取り入れて、ケアマネージャーが作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきなど個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、統一したケアにもつなげている。また、モニタリング時にも活用し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いに出来るだけそえる様、法人内デイサービスや小規模多機能の行事に参加し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の他事業所への行事参加、ボランティアによる演奏会、子供会との関わりが持てた一年だったが、もっと地域にアンテナを立てて、資源把握を行い、本人の暮らしに楽しみが持てるようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続して頂いている。家族との受診に同席させて頂いたり、往診時に家族に代わり状況や経過等細かく伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。とても良い関係を築けている。	受診時はなるべく家族と同行し、日々の身体状況の変化を細やかに医師に報告している。また、同行しない時には、経過を記したメモを家族に渡し、受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時や急変時はもちろん、便秘や血圧、服薬のことなど、日常生活の中で気になることを看護師に密に連絡、相談し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の生活情報を病院へ提供する。入院中は本人に面会に行くと共に、看護師や医師に面談、状態把握する。退院が決まったら日常生活の注意点等確認し職員間で統一する。各々かかりつけ医との関係づくりはスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の想いを十分に聞き取り、かかりつけ医、事業所を混じえて方針を決めていく。ご家族が思い通りの看取りができるよう、職員もその時その時で最良のケアができるよう、病院とも密に連絡をとり対応している。	看取りの指針を作成し、利用開始時に説明している。状況変化が起きた場合はその都度家族と話し合い、意向を踏まえ、安心して最期を迎えられるよう、それぞれの意志を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡マニュアルを作成し、ミーティング時に繰り返し確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年に2回避難訓練を実施して(うち1回は消防署立ち合いにて)避難方法や連絡方法の確認を行っている。	6月と12月の2回避難訓練を実施し、通報、避難、消火等の訓練を行い、アドバイスも得ている。経営者も地域との連携をはかり、危機管理体制を整えている。	誘導の手順など、避難時の詳細なマニュアルを整備される事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム内での利用者間の関係が穏やかでいられるよう会話の間を取り持ったり、代返したりして、利用者の人格を尊重し大切にしている。各居室に入る時は本人の了解を得ている。	入居者本人の気持ちを大切に考えて、職員が笑顔で声掛けするよう努めている。個人情報に関する書類の管理にも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々生活の中で思いを口に出して頂けるよう話しやすい雰囲気づくりを行っている。難聴の方には筆談にて説明し、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日その時の心身の状態を考慮し、気持ちよく過ごして頂けるよう、その人のペースを大切に努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時家族より、本人の理美容や洋服の好みなどを伺い、それに沿って支援できるよう気を付けている。散髪は訪問美容を利用。本人と相談し、家族に了解を得てお願いしている。男性は髭剃りの声掛けを行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	持っている能力に応じて、盛り付け、片付けを一緒にして頂いている。季節や行事、食材の旬に合わせ、食事を楽しんで頂けるよう、月1回位のペースで行事食を計画している。	献立を書いて壁に貼り、会話の中で食事に意欲をもっていただくよう工夫している。また、出来る方には下ごしらえや後片付け等手伝ってもらい、役割のある生活となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録に残し、少ない時は体調や排泄、睡眠など考慮し、時間をずらしたり、量を減らす等して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、口腔ケアを行っている。その人に応じ、見守りや仕上げ磨きを行う。隔日で義歯を洗浄剤につけ清潔を保っている。状態により歯科受診を勧める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により各々の排泄パターンを把握し、それに合わせて声掛け、誘導している。失敗のある方でも、日中は布パンツ、夜間は紙パンツ+ポータブルトイレと、出来る限りトイレでの排泄を支援している。	職員は排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、日中はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄間隔を把握し、体操や水分摂取、食事や間食で食物繊維を摂って頂く工夫をする。状態により服薬等の対応にて、便秘が長引かないよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調やバイタル測定にて入浴者を決めている。入浴で気分転換を図って頂くこともある。毎回新しい湯を使用。好みの湯加減で、またぐことが出来ない方でも安心して入ることが出来る浴槽がある。	身体状況を見ながら、一人ひとりの希望を聞き対応している。入浴時間は、入居者と職員が1対1でくつろいだ気分でコミュニケーションを取りながら、楽しく入浴していただけるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度や湿度の調整で環境を整えたり、足湯や温かい飲み物をお出ししてリラックスして頂き、服薬に頼らず休んで頂いている。夜間眠れない方には、職員がゆっくり対応し、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明を頂き把握している。用法容量により分けて保存し、服薬時、一人ひとりに手渡し服薬まで確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、本人、家族より生活歴、好み等確認し、お一人ずつの得意なこと、興味あることをレク等に取り入れて、楽しみや張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭先での日向ぼっこ、スーパーへ買い物等、少しでも出られるよう考えているが、職員の体制などによりなかなか思うように外に出ることが難しい。法人内デイサービスのレク参加を活用し、気分転換や運動につなげている。	墓参りに出掛けたり、日中家に帰る等の外出が出来るよう家族に協力頂き、気分転換や家族とふれあう機会も大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高価な物や不要なお金は持ち込まないようにして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時は、職員が家族等へ連絡させて頂いている。年賀状など頂き、スタッフが代読する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、家族が来所された時、一緒に撮った写真を飾ったりして、少しでも穏やかに、心地よく過ごせるようにしている。温度や湿度、音、臭い、除菌に気を付け、快適に安心して暮らせる空間をつくっている。	随所にオゾン発生装置が置かれ、生活空間は明るく清潔に保たれている。嫌な臭いや音もなく、食事を作る音や匂いが感じられ、生活感のある共有空間で穏やかに過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置や場所(ホール、廊下、窓際、玄関等)で独りになれたり、気の合ったもの同士で過ごしたり出来るよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ち込んで頂いたり、家族の面会時一緒に撮った写真等を飾っている。各々居室に表札をつけ、職員が入室の時は、本人に理由を伝え入らせて頂くようにしている。	ベット・筆筒は備え付けとなっているが、椅子など使い慣れた物を持ち込まれている。居室の入口には、担当職員手作りの表札があり、分かりやすく工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、したい事に応じて、自分に合ったテーブル、ソファ、椅子を使用して頂いている。		